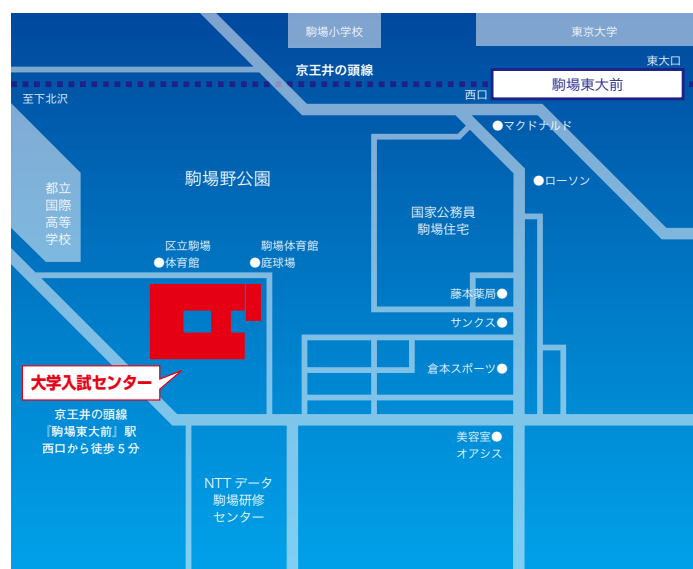


2012 (平成 24) 年度

所在地



独立行政法人大学入試センター

〒153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23

☎ 03-3468-3311 (代表)

ホームページアドレス <http://www.dnc.ac.jp/>

平成 24 (2012) 年6月発行



独立行政法人

大学入試センター要覧



National Center for University Entrance Examinations

National Center for University Entrance Examinations



理事長ごあいさつ



大学入試センター理事長
吉 本 高 志

大学入試センター試験は、大学入学志願者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定することを主目的としています。大学はそれぞれの判断と創意工夫に基づいてこの試験を用い、志願者の能力、適性を多面的に判断しています。年々大学入試センター試験に参加する大学が増加していること、いわゆる現役生の志願率が上昇していることなど、大学入試センター試験は非常に重要な役割を果たしていると考えています。試験問題についても高い評価を得ています。これは、長年にわたる作題委員、評価委員の方々の努力の集積に他ならず、深く感謝しています。大学入試センター試験は、各大学と共同で実施する試験です。また、それぞれの大学の入学試験の一部であり、個別試験と併せて入学者選抜の判定に資するものです。関係する皆様の一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。我が国の大学入学試験は時代の推移とともに様々な変革を遂げてきました。大学入試センターでは、入学者選抜に関する研究における中核拠点としての役割を一層推進することを目指し、入学者選抜方法の改善に関する調査研究を進めています。全国大学入学者選抜研究連絡協議会の主催なども、その一環であり、これらを契機に、各大学との共同研究もより一層積極的に進め、入学者選抜方法の改善に役立てたいと考えています。

大学入試センターは、常に現状を正しく分析し、評価し、積極的に改善する努力を忘れてはいけなとと考えています。関連機関等と広く意見を交換し、より良い試験の実施を目指して努力を続ける所存です。

大学入試センターの概要

センターの目的

独立行政法人大学入試センターは、大学に入学を志願する者に対し大学が共同して実施することとする試験に関する業務等を行うことにより、大学の入学者の選抜の改善を図り、もって大学及び高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）における教育の振興に資することを目的としています。

第三期中期目標期間（平成23年～27年）における計画

① 大学入試センター試験

大学に入学を志願する者の高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的として大学が共同して実施する大学入試センター試験に関し、問題作成、試験の実施、答案の採点・成績提供及びその他一括して処理することが適当な業務を滞りなく確実に実施するための業務を円滑かつ適切に行います。

② 大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究

我が国の大学入学者選抜方法の改善について調査研究を行う中核的機関として、大学入試センターが主体となり、各大学等と連携協力し、調査研究を行います。

- 大学入試センター試験に関する調査研究
大学入試センター試験の改善に資するため、国の審議会等において大学入試センター試験の改善について指摘されている内容も踏まえ、計画的に調査研究を行うとともに、研究成果のうち可能なものから大学入試センター試験に反映していきます。
- 大学入学者選抜方法の改善に関する調査研究

Contents

理事長ごあいさつ	1
大学入試センターの概要	2
大学入試センター試験の概要	
大学入試センター試験に参加した入試の仕組み	3
大学入試センター試験の果たす役割など	4
年間スケジュール	5
平成25年度大学入学者選抜実施日程	6
平成25年度大学入試センター試験の 出題教科・科目等	7
リスニング	8
大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究	
研究開発部	9
入学者選抜研究機構	11
全国大学入学者選抜研究連絡協議会	13
組織・運営等	14
資料	
大学入試センターのあゆみ	17
平成24年度大学入試センター試験統計データ	19
平成25年度大学入試センター試験参加大学	22
大学入試センターと入試改善	27



大学入試センター試験は各大学が 大学入試センターと協力して共同で実施します。 各大学の多様な選抜方法の推進役となっています。

大学入試センター試験は、大学（短期大学を含む。以下同じ。）に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定することを主たる目的とするものであり、各大学が、それぞれの判断と創意工夫に基づき適切に用いることにより、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的に判定することに資するために実施するものです。

大学入試センター試験に参加した入試の仕組み

大学入試センター試験の運営

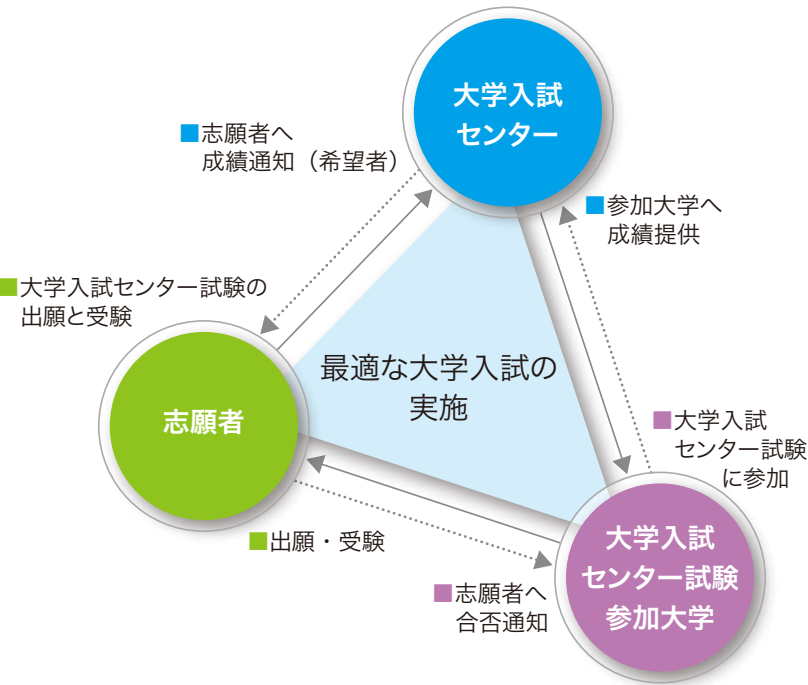
大学入試センター試験は、この試験に参加する国立、公立、私立の各大学が大学入試センターと協力して同一の期日に同一の試験問題により、共同して実施します。

●大学入試センターの役割

- 試験問題の作成、印刷、輸送
- 受験案内、実施マニュアルなどの作成
- 出願の受付、試験場の指定、受験票の交付
- 答案の採点、集計
- 試験成績などの各大学への提供
- 試験成績の本人通知

●参加大学の役割

- 大学入試センター試験の利用教科・科目及び各大学ごとの学力検査などの予告
- 試験場の設定、試験監督者などの選出
- 志願者への受験案内の配付
- 試験の実施、答案の整理・返送、試験成績の請求
- 試験問題作成に携わる者の派遣
- 試験問題の保管・管理



●検定料	3教科以上受験	18,000円
	2教科以下受験	12,000円
●成績通知手数料	出願時	800円
(成績通知を希望する場合、出願時に検定料と併せて払込)		
●出願方法		
(1) 高等学校又は中等教育学校卒業見込者は、在学している学校経由		
(2) 高等学校又は中等教育学校卒業者等は、直接郵送		
●試験場		
(1) 高等学校又は中等教育学校卒業見込者は、出願時に在学している学校が所在する試験地区内の試験場		
(2) 高等学校又は中等教育学校卒業者等は、志願票に記入された現住所の試験地区内の試験場		

大学入試センター試験の果たす役割など

大学入試センター試験は、昭和54年度から平成元年度まで実施された国公立大学を対象とした共通第1次学力試験に代えて、平成2年度から国公立大学を対象として実施されているものです。
平成23年度からは、AO入試を実施する際は、大学入試センター試験の成績を出願要件（出願の目安）や合否判定に用いること等に留意することが大学入学者選抜実施要項に明記されました。

1 難問奇問を排除した、
良質な問題の確保

昭和53年度以前は、高等学校教育の程度や範囲を超えた難問奇問の出題が少なくありませんでしたが、共通第1次学力試験や大学入試センター試験の導入により、難問奇問を排除した良質な問題が確保されるようになり、現在、高等学校等の関係者からも高い評価を受けています。

2 各大学が実施する試験との適切な組合せ
による大学入試の個性化・多様化

大学入試センター試験に参加することで、小論文、面接等を実施する大学や推薦入試、帰国子女・社会人を対象とした特別入試を実施する大学が増えつつあります。このように、大学入試センター試験は大学入試の個性化・多様化に貢献しています。AO入試や推薦入試に大学入試センター試験を用いる例もあります。

3 国公立大学を通じた入試改革

私立大学の参加数は年々増えており（平成24年度入試では、513大学）、参加した私立大学からも好評を得ています。

4 アラカルト方式による
各大学に適した利用

大学入試センター試験では、利用教科・科目を各大学が自由に指定できるアラカルト方式により、各大学がその大学・学部に必要な教科・科目を指定することができます。

大学入試センター試験参加のメリット

大学入試センター試験に参加することにより、新しい層の学生の開拓や、全国へのアピール、さらに面接などに重点を置くことができるなど、様々なメリットがあります。

- 大学入試センター試験を利用する選抜については、全科目に平均的な学力を有するオールラウンド型の学生が受験するなど、従来とは異なった層の学生を開拓することができた。
- 大学入試センター試験への参加により、今まで実施が難しかった小論文や面接を導入する余裕ができた。
- 受験者が全国的に広がり、受験者数も従来より増加した。
- 大学のPRに役立ち、イメージアップが図れた。
- 大学独自の試験のみで選抜を行うよりも、広範囲の教科・科目から選択することで広い視野から受験者の適性の評価が行えるようになった。
- 同一大学・学部の受験チャンスが1回増えたことが受験者に好評であった。

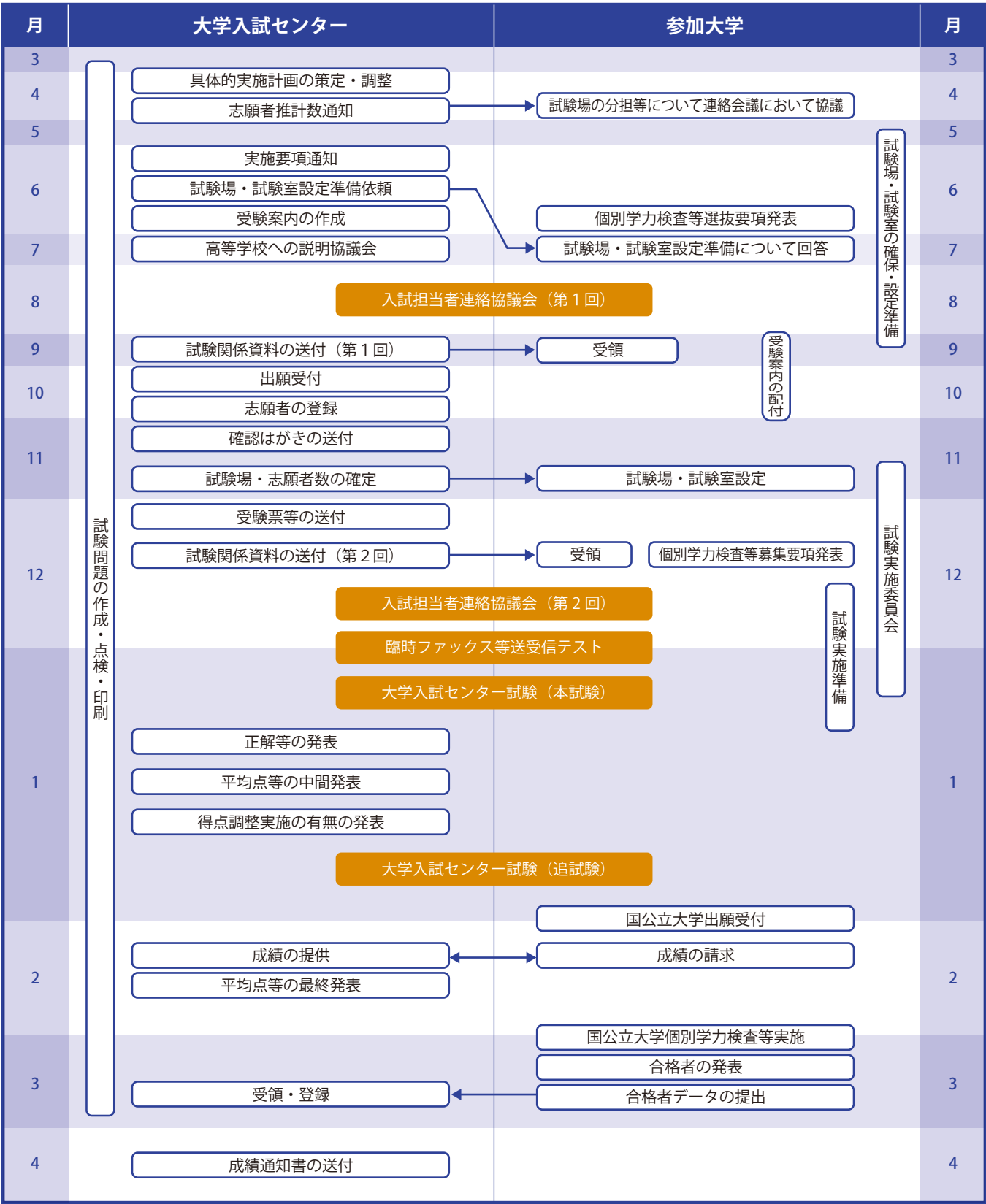
各大学での参加方法の一例

- 基礎的な学力を幅広く評価するため、出題教科・科目を総合的に活用。
- 一般入試の募集人員の一部について、大学入試センター試験の特定の教科・科目を選択。
- 教科・科目に幅を持たせ、受験者が得意なものを選択させる。
- 調査書と大学入試センター試験で第1次の選抜を行い、その合格者について面接試験を実施。
- 工学部において、大学入試センター試験の数学・外国語を選択。大学が行う試験は理科のみを実施。
- 募集人員の一部について、大学入試センター試験と大学が行う試験のうち、高得点の方を合否の判定に使用。
- 推薦入試について、大学入試センター試験の国語・外国語のみを用い、大学が行う試験として面接を実施。
- 大学入試センター試験で必要とする成績水準を明示した上で、大学入試センター試験の成績がその水準に達している者は大学が行う試験に進ませ、大学入試センター試験の成績は合算せずに大学が行う試験の成績のみで合否を判定。
- 大学の自主的な判断に基づき、過年度の大学入試センター試験の成績を当該年度の入学者選抜に使用。

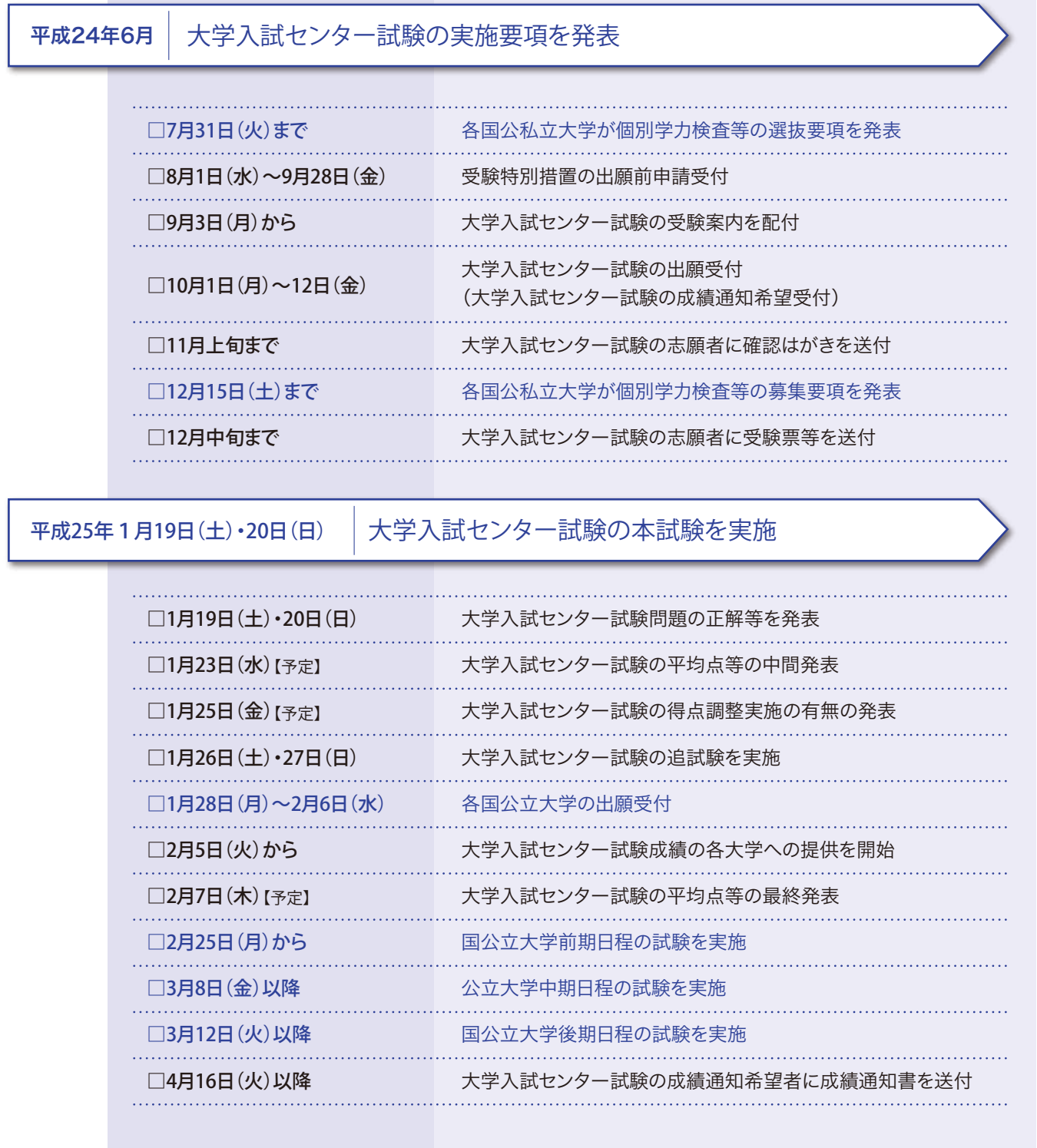


大学入試センター試験の概要

年間スケジュール



平成 25 年度大学入学者選抜実施日程



(注) 1 国公立大学の実施日程は、上記日程と一部異なる場合があります。
2 私立大学・公私立短期大学は、出願期日、試験日とも各大学が設定しています。



大学入試センター試験の概要

平成 25 年度大学入試センター試験の出題教科・科目等

期日	教科・グループ ^(注1)	時間・配点	出題方法等	科目選択の方法等
平成25年1月19日(土)	地理歴史 「世界史A」「世界史B」 「日本史A」「日本史B」 「地理A」「地理B」	2科目受験 9:30～11:40 (うち解答時間120分) (200点)		左記出題科目の10科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 ただし、同一名称を含む科目の組合せで2科目を選択することはできない ^(注4) 。 なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。
	公民 「現代社会」「倫理」 「政治・経済」 『倫理、政治・経済』	1科目受験 10:40～11:40 (100点) (注3)	『倫理、政治・経済』は、「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。	
	国語 ^(注2) 『国語』	13:00～14:20 (200点)	「国語総合」、「国語表現Ⅰ」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典(古文、漢文)を出題する。	
	外国語 ^(注5) 『英語』 『ドイツ語』* 『フランス語』* 『中国語』* 『韓国語』*	【筆記】 15:10～16:30 (200点) 【リスニング】 (「英語」のみ) 17:10～18:10 (うち解答時間30分) (50点)		左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。
平成25年1月20日(日)	理科 「理科総合A」 「理科総合B」 「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」 「生物Ⅰ」「地学Ⅰ」	2科目受験 9:30～11:40 (うち解答時間120分) (200点) 1科目受験 10:40～11:40 (100点) (注3)		左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 なお、受験する科目数は出願時に申し出ること。
	数学① 「数学Ⅰ」 『数学Ⅰ・数学A』	13:00～14:00 (100点)	『数学Ⅰ・数学A』は、「数学Ⅰ」と「数学A」を総合した出題範囲とする。	左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。
	数学② 「数学Ⅱ」 『数学Ⅱ・数学B』 『工業数理基礎』* 『簿記・会計』* 『情報関係基礎』*	14:50～15:50 (100点)	『数学Ⅱ・数学B』は、「数学Ⅱ」と「数学B」を総合した出題範囲とする。 ただし、次に記す「数学B」の4項目の内容のうち、2項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。〔数列、ベクトル、統計とコンピュータ、数値計算とコンピュータ〕 『簿記・会計』は、「簿記」及び「会計」を総合した出題範囲とし、「会計」については、会計の基礎、貸借対照表、損益計算書、財務諸表の活用の4項目の内容のうち、会計の基礎を出題する。 『情報関係基礎』は、専門教育を主とする農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報及び福祉の8教科に設定されている情報に関する基礎的科目を出題範囲とする。	左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 ただし、※が付された科目の問題冊子の配付を希望する場合は、出願時に申し出ること。

(注) 1 国語、理科及び外国語(『英語』を除く。)は、各教科について1試験時間とし、地理歴史及び公民については、合わせて1試験時間とします。数学は、①及び②の出題科目のグループごとに、外国語『英語』は、筆記とリスニングに試験時間を分けます。
2 「国語」の出題分野別の配点は、「近代以降の文章(2問100点)」、古典(古文(1問50点)、漢文(1問50点))」とします。
3 地理歴史及び公民並びに理科の試験時間において2科目を選択する場合は、解答順に第1解答科目及び第2解答科目に区分し各60分間で解答を行います。第1解答科目及び第2解答科目の間に答案回収等を行うために必要な時間を加え、試験時間は130分とします。
4 「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史A」と「世界史B」、「日本史A」と「日本史B」、「地理A」と「地理B」、「倫理」と『倫理、政治・経済』及び「政治・経済」と『倫理、政治・経済』の組合せを指します。
5 「英語」を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を解答してください。リスニングは、音声問題をうい30分間で解答を行います。解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認・音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加え、試験時間は60分とします。

大学入試センター試験に参加する大学は、大学入試センター試験の出題教科・科目の中から、入学志願者に解答させる教科・科目及びその選択方法を定めています。入学志願者は、各大学の学生募集要項等により、出題教科・科目を確認の上、大学入試センター試験を受験することになります。平成25年度大学入試センター試験においては、6教科29科目が出題されます。大学入試センター試験は、主として多肢選択による客観式の検査方式で出題し、解答はマーク方式によります。この試験は、これまでの研究や経験の積み上げの中から、単に表面的な暗記知識だけを問うのではなく、論理的な思考力や判断力などを評価できるよう、試験問題の形式や内容について工夫改善を図ってきたものです。

リスニング

大学入試センター試験の外国語で『英語』を選択する受験者は、原則として、筆記とリスニングの双方を解答することになります。リスニングでは、受験者が監督者の指示に従い、各自に配付されたICプレーヤーを操作して問題音声を聞き取り、解答します。問題音声は約30分、配点は50点満点です。ただし、解答開始前に受験者に配付したICプレーヤーの作動確認、音量調節を受験者本人が行うために必要な時間を加えて、試験時間は60分です。なお、ICプレーヤーと音声メモリーは、資源の有効利用のため試験終了後回収します。



ICプレーヤーには、3つのボタンと2つのランプ、音量つまみが付いています。2つのランプ(緑、赤)はICプレーヤーの作動状態を示します。

- リスニングの進行
- 各受験者に、問題冊子、解答用紙とともに、ICプレーヤー、イヤホン及び音声メモリーが配付されます。受験者はICプレーヤーから流れる問題音声を聞き取り、設問ごとに解答用紙にマークします。
 - ICプレーヤーの操作は、「1電源」「2確認」「3再生」の各ボタンを監督者の指示に従い、順番に押すだけの簡単なものです。
 - 問題音声は設問ごとに2回流れます。また、1回目の音声と2回目の音声が流れた後には、それぞれ解答するための音声が流れない時間があります。
 - 音量は、受験者が各自に合った大きさに、いつでも調節することができます。



大学入試センターのホームページでは、ICプレーヤーの操作を体験することができます。また、試験問題、正解、問題音声等も掲載しています。



研究開発部

大学入試センター研究開発部は、大学入試センター試験の改善および個別大学における入学者選抜方法の改善を目的とする多くの研究を行っています。大学入試センター試験はこれまで20年以上にわたって実施されてきましたが、その間、様々な改善が加えられてきました。研究開発部は、問題作成の方法、試験問題の分析・評価およびそれらのデータベース化などについて研究を行い、大学入試センター試験の実施・改善に貢献しています。また、大学入試センター試験は、高等学校段階での学力達成度を適切に測定することを目的としていますが、個別大学における入学者選抜の有効な資料となることも求められています。このことから、研究開発部は、教科目によらない総合的な試験、試験得点の調整方法、テスト理論に基づく試験、高大接続に関わる調査など、入学者選抜方法の改善に必要とされる重要な開発研究を集中的に行っています。大学全入時代と呼ばれる今日、これらの研究がより適切な入学者選抜方法の確立に寄与することが期待されています。

研究部門・研究分野・研究課題

研究開発部は、試験基盤設計研究部門と試験評価解析研究部門の2部門からなり、その研究活動は研究開発部長および各部門におかれた部門主任2名により統括されています。

研究部門	研究分野	平成24年度の主な研究課題
試験基盤設計研究部門 教 授 宮埜 壽夫 ¹⁾ 教 授 山村 滋 ²⁾ 准教授 鈴木 規夫 准教授 伊藤 圭 准教授 櫻井 裕仁 助 教 濱中 淳子 助 教 荒井 清佳	計量心理 教育行政 情報科学 物理 統計学 教育社会 計量心理	・新しい高大接続システムに関する研究 (アドミッション・ポリシーに関する調査) (高校生の学習行動に関する調査) ・試験問題統計情報・関連情報の組織化に関する調査研究 ・新しいモニター調査の設計
試験評価解析研究部門 教 授 大津 起夫 ²⁾ 教 授 石岡 恒憲 教 授 椎名久美子 准教授 内田 照久 准教授 荘島宏二郎 助 教 橋本 貴充 助 教 大久保智哉	計量心理 情報科学 認知科学 教育心理 教育心理 教育心理 計量心理	・非教科型入学試験の検討 ・得点調整に関するテスト理論的研究 ・新しいモニター調査の設計 ・新しい試験の開発に関する研究

1) 部長 2) 部門主任

(平成24年4月現在)

研究の形態

研究開発部の教員が行う研究は、中期計画にしたがって行われていますが、研究経費の種類により、特別研究、理事長裁量経費による研究、科学研究費補助金などの外部資金による研究等に分けられます。特別研究は、比較的大規模な研究であり、入学者選抜研究機構および大学等の研究機関／研究者と連携して行われています。平成23年度より開始された特別研究には、次の研究課題があります。

- ① 新しい高大接続システムに関する研究
- ② 新しい試験の開発に関する研究
- ③ 試験問題統計情報・関連情報の組織化に関する調査研究
- ④ 得点調整に関するテスト理論的研究

これらの特別研究課題と同様に、その他の研究経費による研究についても中期計画にしたがって具体的な課題が設定されており、研究開発部外の研究者と必要に応じて連携しながら行われています。

研究成果の発信

研究開発部の教員による研究成果は、日本テスト学会誌、日本行動計量学会誌などの学会誌、大学入試センターの「研究紀要」、大学入試センターが全国大学入学者選抜研究連絡協議会と連携して発行する「大学入試研究ジャーナル」などで見ることができます。また、特別研究の成果などは、とくに研究期間の終了時に研究成果報告書としてまとめられています。平成23年度に刊行された研究成果報告書には、次のようなものなどがあります。

- 大学入試センター試験の資格試験的取扱いと複数年度利用に関する研究
- 試験問題関連情報の電子的組織化と高機能検索法の研究
- 新しい枠組みとしての総合試験の実証的研究(2)
- 高校生の進路についての調査―第1次報告書―

●ホームページ

研究成果の一部は、平成22年度より大学入試センターのホームページ上に掲載されています。現在掲載されている内容は、「研究紀要」、「大学入試研究ジャーナル」の一部ですが、今後さらに掲載内容の充実を図る予定です(研究紀要については<http://www.dnc.ac.jp/modules/research/content0022.html>、大学入試研究ジャーナルについては<http://www.dnc.ac.jp/modules/research/content0046.html>をご覧ください)。



大学の入学者選抜方法の改善に関する調査研究

入学選抜研究機構

入学者選抜研究機構は、大学入試センターが試験の実施のみならず、入学者選抜研究においてもその中核拠点としての役割を果たすことを目指し、平成 22 年 4 月 1 日に発足しました。既設の研究開発部が主に試験の実施を支えるための基盤的研究に従事してきたのに対し、研究機構は（１）社会的な要請の高い課題に迅速に取り組むこと、その研究体制として（２）研究開発部との共同研究はもちろん、国内外の大学、研究機関、当該の専門家との連携を強め、より広い視野から有効な研究アプローチを選択すること、さらに（３）得られた研究成果について積極的な情報発信に努めることを 3 本の柱として考えています。これらの目的を達成するため、研究機構が取り組む研究課題は 3 年の時限としています。

研究機構の研究組織は 3 部門により構成されています。各部門とも当面 2 つのテーマを掲げて合計 6 つの研究プロジェクトを進めていきます。

第 1 の部門は入学者選抜における「障害者支援」に関する研究に取り組みます。視覚障害者に対する試験時間の延長、音声出題といった課題については従来から研究を進めてきましたが、それに加えて、発達障害などのある受験者の入学者選抜の状況を調査し、これからの支援のあり方を検討します。

第 2 の部門は「新テスト開発」です。高校までの教育と大学教育との接続が困難になっているとの指摘があります。大学全入化といわれる中で、大学での学習に必要な進学準備とは何か、いかにしたら適正な学習の場に到達できるのか、新しい試験の開発や新たな入学者選抜の工夫が求められています。

第 3 の部門は「大学入試評価」です。大学入試の多様化が進むなかで入試の機能不全が指摘されています。入試に必要とされる選抜機能、診断機能はどのように働いているのか、またどのようなべきなのか、大学入試スタンダード（標準）についての統計学・測定理論的な検討を進めます。また同時に、大学・学校システム全体の変化をも視野にいれながら、外国の事例等を参照し、入試の質的な評価基準の設定及び入学者選抜の制度についても調査と検討を進めます。



シンポジウム・セミナー

平成 23 年度は下記のシンポジウムとセミナーを行いました。

●セミナー

テーマ：大学入試を考える
～全入化時代に入学者選抜は必要か～

開催日 平成 2 3 年 1 0 月 1 日
場 所 日本教育会館
参加者 約 1 0 0 名
内 容 大学入試は、学力を軸にした「競争選抜」から「大学全入化」へ大きく変わろうとしています。「情報技術」「グローバル化」「障害者」という 3 つのテーマの報告を受け、「全入化の時代に、入学者選抜はなお必要なのか」という課題について全体討論を行いました。

●国際シンポジウム

テーマ：教育テストの可能性
ー 21 世紀型能力の育成と高大接続

開催日 平成 2 3 年 1 1 月 1 8 日
場 所 有楽町朝日ホール
参加者 約 4 0 0 名
内 容 日本では、学力試験が長く大学入学者選抜の中心であったために、否応なく受験準備が学校教育の目的となってきました。「受験中心の教育や学習を脱して、学習者の意欲を高め、教育の質を向上させる新しい教育ツールとしての試験とは何か」という課題について、韓国、米国 ACT、UCLA などのパネリストとともに議論しました。

研究課題及びメンバー紹介

●機構長

職・氏名	研究分野	研究課題
試験・研究統括官 荒井克弘	高等教育研究	入学者選抜の研究

●障害者支援部門

分野・職・氏名	研究課題	研究プロジェクト
視覚障害に関する研究 特任教授 藤 芳 衛 特任准教授 南谷和範	入学者選抜における特別措置と関連する「障害者支援」についての開発的な研究をする部門です。特別支援教育の発展は高等教育にも大きな影響を及ぼしつつあり、その支援技術（AT）の開発は、入試などにも新しい局面をもたらしつつあります。障害にはさまざまな種類がありますが、現段階では視覚障害等を中心にしたユニバーサルデザインに関する研究プロジェクトと、LD、ADHD、自閉症など、いわゆる発達障害のある者を対象にした、適切なアコモデーションに関する研究プロジェクトに取り組んでいます。	視覚障害に関する研究 大学入試センター試験は、開発当初から障害を有する受験者をはじめ全ての受験者に公平に配慮するテストのユニバーサルデザインで設計されています。しかし、開発当初から 30 年年度以上を経過した現在、近年の科学技術の進歩を活用して試験方法の更なる改善が求められています。また、国連の「障害者の権利に関する条約」の批准を控え、「合理的配慮」の規定の遵守も求められています。このため、視覚障害者をはじめ、障害を有する全ての受験者に公平な試験を実施するためテストのユニバーサルデザインの研究開発を進めています。
発達障害に関する研究 特任教授 上野一彦 特任助教 立脇洋介		発達障害に関する研究 わが国では発達障害の人がおよそ 6% いるといわれています。発達障害に対する教育的支援は、他の障害に比べ遅れていますが、義務教育での特別支援教育の導入や高等学校での発達障害支援モデル事業など急速に進行しています。それに比較し、大学での対応は大きく遅れています。半数の人が大学へ進学する現状を踏まえすと、高等教育の入学段階でも、アコモデーションが必要であると考えられます。そのために、公平かつ妥当なアコモデーションのあり方について研究します。

●試験開発部門

分野・職・氏名	研究課題	研究プロジェクト
新たな試験の、レベル（難易度）、測定すべき能力の検討 特任教授 小牧研一郎 客員准教授 安野史子	高校までの教育と大学教育との接続が困難になっているとの指摘があります。大学全入化といわれるなかで、大学での学習に必要な進学準備とは何か、いかにしたら適正な学習の場に到達できるのか、新しい試験の開発や新たな入学者選抜の工夫が求められています。 大学入試センターによる法科大学院適性試験は平成 22 年 6 月をもって終了しました。そこで蓄積された知見を非教科型適性試験に有効に生かすことは、入学者選抜全般にとってこれからの重要な課題です。	新たな試験の、レベル（難易度）、測定すべき能力の検討 高等学校段階の各教科・科目毎の基礎的な学習の達成度を測る大学入試センター試験は、共通第 1 次学力試験開始以来 30 年以上に渡り国公私立の大学・短期大学の入学試験に利用されてきました。近年、AO 入試や推薦入試による選抜が増加し、大学入学者の学力を担保する新たな仕組みの必要性が唱えられ、「高大接続テスト（仮称）」等の検討が行なわれています。本プロジェクトでは、これから必要とされるであろう、新たな試験のモデルを研究し、実際に問題の作成から試験の実施、結果の評価まで、一連の作業を行い、その実現可能性等を研究します。
新たな入学者選抜手法導入の可能性に関する調査研究 客員教授 土屋 俊 客員准教授 村上祐子		新たな入学者選抜手法導入の可能性に関する調査研究 入学者の能力を正確に把握して、それに対応する教育方法、指導方法を構築することは、高等教育機関がその教育成果の質的保証を行うために必要不可欠です。またそれは、入学後の学習と研究の指導において、アドミッション・ポリシーやディプロマ・ポリシーとの整合性や教員とのマッチング機能との関係から公平性を担保することにつながります。大学入試センターがこれまで積み重ねた知見を生かして、非認知型選抜方法の導入や ICT 利用などを通して、さまざまなレベルの入学者選抜について現状の調査と新手法の構想・開発を行います。

●入試評価部門

分野・職・氏名	研究課題	研究プロジェクト
大学入試の標準化、多様化、および精密化 客員教授 繁樹算男 特任助教 山形伸二	大学入試の多様化が進むなかで入試の機能不全が指摘されています。入試に必要とされる選抜機能、診断機能はどのように働いているのか、またどのようなべきなのか、大学入試スタンダード（標準）についての統計学的・理論的な研究を行います。また同時に、大学システム全体の変化をも視野にいれながら、外国の事例等を参照し、入試の質的な評価基準の設定及び入学者選抜の制度についても調査と研究を進めます。	大学入試の標準化、多様化、および精密化 日本における入試の歴史、現在の日本社会の入試に対する要請、諸外国の入試の現状を考察し、意思決定論や統計学の方法を用いて、大学入試のスタンダードを作成します。スタンダードとは、入試のプロセスのそれぞれの局面においてどのようなことがなされるべきかについて、標準的な基準を提供しようとするものです。さらに具体的には、大学入試のプロセスを 6 つのステップに分け、それぞれに望ましい手続き、必要な手続きなどを記述します。
諸外国の入試制度の調査と評価 客員教授 田中義郎 特任助教 富山明華		諸外国の入試制度の調査と評価 高等教育の拡大により、入試だけにとらわれない、新しい進学方式を視野に入れた、新たな接続のシステムが模索されています。そこで諸外国における高等教育システムの全体と各教育サブシステムの中身（入学・進学等）について、調査・分析を進めます。具体的には、北米、EU 諸国、アジア、オセアニアにおけるアドミッション・ポリシーに着目し、高大教育接続における入学者選抜制度の健全性、有効性を調査、評価し、比較国際アプローチによる政策研究を行います。



全国大学入学者選抜研究連絡協議会

1 目的

大学の入学者の選抜方法の改善に関する調査及び研究に関し、研究交流の一層の推進に資することを目的としています。

2 事業内容

- 1 大学間における研究協議のための全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会の開催
- 2 大会を通じた入学者選抜に係る共同研究
- 3 上記活動に係る報告書等の編集
 - 大学入試研究ジャーナル
 - 大学入試研究の動向

3 平成24年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会の概要

- 1 企画討論会
 - テーマ：新学習指導要領の導入：大学の対応と課題
 - サブテーマ：
 - 新学習指導要領の趣旨とカリキュラム編成の在り方
 - 学習指導要領の改訂と大学入試センター試験
 - 高校での対応と課題
 - 学習指導要領の改訂と高大接続
- 2 公開討論会
 - テーマ：秋季入学を考える
- 3 大会関連行事 大学入試センターセミナー
 - テーマ：テスト理論入門
 - サブテーマ：
 - 大学入試に役立つテスト理論の基礎
 - テスト理論の活躍
 - テスト理論が示す入試の未来



4 これまでの実績

- 平成18年度 静岡県コンベンションアーツセンター 静岡大学と共催 511名・190大学参加
- 平成19年度 国立オリンピック記念青少年総合センター 北里大学と共催 536名・224大学参加
- 平成20年度 国立オリンピック記念青少年総合センター 東京外国語大学と共催 575名・216大学参加
- 平成21年度 学術総合センター 千葉大学と共催 454名・189大学参加
- 平成22年度 北九州国際会議場 北九州市立大学と共催 411名・187大学参加
- 平成23年度 早稲田大学早稲田キャンパス 早稲田大学と共催 574名・212大学参加
- 平成24年度 岡山コンベンションセンター 岡山大学と共催 579名・189大学参加

組織・運営等

大学入試センターデータ

● 役職員数

理事長 (所長)	理事 (副所長)	試験・研究統括官 (副所長)	監事	試験・研究 副統括官	試験問題 調整官	総務企画部・事業部	研究開発部			合計
						事務職員・技術職員	教授	准教授	助教	
1	1	1	1(1)	2	(1)	75	3	5	4	93(2)

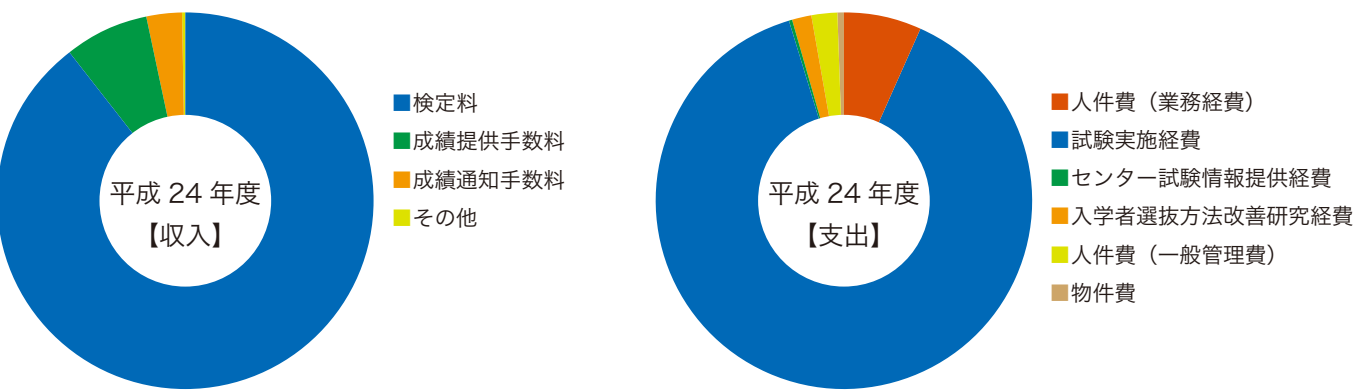
(注) () は非常勤役員及び特任教員の数で外数で示す (平成24年4月1日現在)

● 入学者選抜研究機構

機構長	特任教授	特任准教授	特任助教	合計
1※	3<3>	1<2>	3	8<5>

(注) ※は試験・研究統括官を兼務
< > は客員教員数で外数で示す (平成24年4月1日現在)

● 予算 (平成24年度)



収入	
検定料	10,074
成績提供手数料	834
成績通知手数料	336
その他	11
合計	11,255

(単位：百万円)

支出	
業務経費	11,006
人件費	760
試験実施経費	10,053
センター試験情報提供経費	17
入学者選抜方法改善研究経費	176
一般管理費	249
人件費	191
物件費	58
合計	11,255

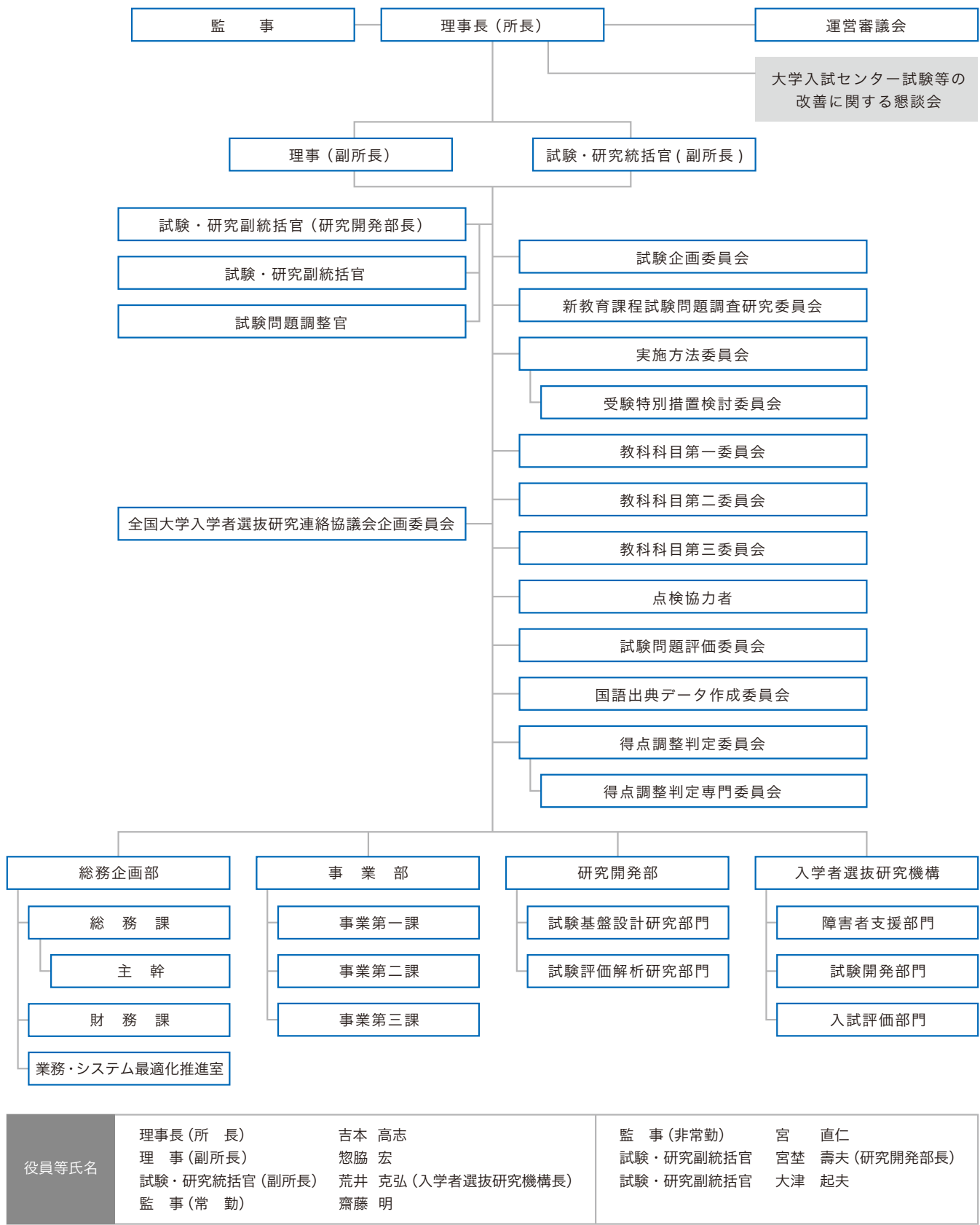
(単位：百万円)

● 施設

施設名	土地	建物 (延面積)
大学入試センター本館等	16,275㎡	15,035㎡



独立行政法人 大学入試センター 組織図



（平成 24 年 6 月 1 日現在）

各種委員会等

運営審議会

理事長の諮問に応じ、大学入試センターの事業計画その他重要事項について審議します。国公立大学関係者、学識経験者及び高等学校関係者等で組織されています。

大学入試センター試験等の改善に関する懇談会

大学入試センター試験の改善及び充実のための方策並びに大学入試センターが果たすべき役割等について意見を伺います。国公立大学関係者、学識経験者、高等学校等関係者で組織されています。

試験企画委員会

大学入試センター試験の実施計画、出題教科・科目、出題範囲等の基本方針及び試験問題の文章表現、構成、出題方法、解答方法等の一般的原则を定める大学入試センター試験問題作成要領の策定等について調査審議します。国公立大学等の教員及び学識経験者等で構成されています。

新教育課程試験問題調査研究委員会

高等学校の新教育課程に対応した平成 27 年度以降の大学入試センター試験問題の作成等について、調査研究を行います。教科科目第一委員会の委員経験者や国公立大学等の教員を中心に組織されています。

実施方法委員会

大学入試センター試験の実施方法及び情報処理に関する事項を処理します。国公立大学等の教員及び高等学校関係者等で組織されています。

●受験特別措置検討委員会

大学入試センター試験における障害のある入学志願者に対する受験特別措置についての調査・検討及び具体的審査等を行います。国公立大学の教員等で組織されています。

教科科目第一委員会

大学入試センター試験の試験問題の作成を行う委員会で、6 教科 29 科目の出題科目の試験問題を作成しています。400 名を超える国公立大学等の教員等で組織され、国語、数学（数学Ⅰ、数学Ⅱ）、外国語（英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）、地理歴史（世界史、日本史、地理）、公民（現代社会、倫理、政治・経済、「倫理、政治・経済」）、理科（理科総合 A、理科総合 B、物理、化学、生物、地学）、工業数理基礎、簿記・会計、情報関係基礎の出題科目の作題部会と点字問題の作成部会の計 25 部会が置かれています。

教科科目第二委員会

教科科目第一委員会が作成した大学入試センター試験の試験問題について、構成、内容、解答及び用字用語等の点検、照合を行います。100 名を超える教科科目第一委員会経験者である国公立大学等の教員及び学識経験者で組織され、出題教科・科目ごとに 21 の点検部会が置かれています。

教科科目第三委員会

教科科目第一委員会が作成した大学入試センター試験の試験問題について、形式、表現及び各科目間の整合性、重複等を総合的に点検、照合します。国公立大学等の教員及び学識経験者で組織されています。

点検協力者

大学入試センター試験の試験問題の難易度及び出題範囲について、高等学校教育の立場から点検を行います。高等学校関係者等で組織されています。

試験問題評価委員会

大学入試センター試験の試験問題の評価を行います。国公立大学等の教員及び高等学校関係者等で組織されています。

国語出典データ作成委員会

各国公立大学の入学試験問題の国語の出典データの整理、入力データの審査、その他データベースの作成に当たっての専門的事項を処理します。

得点調整判定委員会

各年度ごとに大学入試センター試験の結果に関し、大学入試センター試験の状況を考慮するとともに、問題の難易差等を専門的に分析し、得点調整の可否を総合的に判定します。国公立大学関係者で組織されています。

●得点調整判定専門委員会

専門的な立場から大学入試センター試験の結果を分析・整理し、得点調整の可否の判定に必要な基礎資料を準備します。大学入試センターの教員及び学識経験者で組織されています。

全国大学入学者選抜研究連絡協議会企画委員会

国公立大学を通じた入学者選抜方法の改善に関する調査研究を推進するため、協議会大会等の企画実施に係る具体的事項の検討を行います。国公立大学の教員及び学識経験者で組織されています。



大学入試センターのあゆみ

●共通第1次学力試験実施期間

年 月	経 緯
昭和51年 5月(1976年)	・共通第1次学力試験に関する調査研究を推進するため、全国共同利用施設として国立大学入試改善調査施設を東京大学に設置。
昭和52年 5月(1977年)	・大学入試センターが設置され（国立学校設置法の改正）、共通第1次学力試験の準備を開始。 ・管理・事業部として総務課、事業課を、研究部として情報処理、評価、追跡の各研究部門を設置。 ・初代所長に加藤陸奥雄（前東北大学長）が就任。
昭和53年 4月(1978年)	・研究部に試験方法研究部門、試験制度研究部門を新設。 ・管理・事業部の1部2課を、管理部庶務課、会計課、事業部事業課、情報処理課の2部4課に組織改編。
昭和54年 1月(1979年)	・第1回共通第1次学力試験を実施（1月13日、14日）。
昭和57年 4月(1982年)	・第2代所長に小坂淳夫（前岡山大学長）が就任。
昭和57年 6月(1982年)	・企画調整官（教授副所長）を設置。
昭和58年 3月(1983年)	・新庁舎が竣工。
昭和60年 4月(1985年)	・第3代所長に堯天義久（前神戸大学長）が就任。
昭和61年 4月(1986年)	・管理部に企画調査室を設置。
昭和62年 5月(1987年)	・研究部を研究開発部に名称変更し、追跡研究部門と評価研究部門を評価・追跡研究部門に統合するとともに、進学適性研究部門を新設。
昭和63年 4月(1988年)	・第4代所長に有江幹男（前北海道大学長）が就任。 ・副所長（教授及び事務）を設置（企画調整官（教授副所長）を廃止）。 ・事業部事業課を試験実施課と問題作成課に分離（事業部3課体制）。 ・研究開発部に特別試験研究部門、試験問題研究部門（客員部門）を新設（7部門体制）。
昭和63年 5月(1988年)	・国立学校設置法の改正により、大学入試センターの所掌事務が変更され、大学入試センター試験の一括処理業務を担当する機関として位置付けられるとともに、新たに大学情報提供業務が付加。
昭和63年10月(1988年)	・キャプテンシステムを利用してハートシステム（大学進学案内）の運用を開始。
平成元年 6月(1989年)	・事業部の試験実施課を事業第一課に、問題作成課を事業第二課に名称変更。

●大学入試センター試験になってから

年 月	経 緯
平成2年 1月(1990年)	・第1回大学入試センター試験を実施（1月13日、14日）。
平成2年 6月(1990年)	・管理部に進学情報課を設置（企画調査室を廃止）。
平成4年 4月(1992年)	・第5代所長に高橋良平（前九州大学長）が就任。
平成4年 6月(1992年)	・大学入試センター開設15周年記念行事を開催。
平成8年 4月(1996年)	・第6代所長に廣重力（前北海道大学長）が就任。
平成11年4月(1999年)	・第7代所長に丸山工作（前千葉大学長）が就任。 ・研究開発部に入試政策研究部門を新設（8部門体制）。
平成12年4月(2000年)	・研究開発部に問題設計基盤研究部門を新設（9部門体制）。

●独立行政法人化してから

年 月	経 緯
平成13年 4月(2001年)	・独立行政法人大学入試センター設立。 ・初代理事長に丸山工作（前大学入試センター所長）が就任。 ・管理部の進学情報課を情報課、事業部の情報処理課を事業第三課に名称変更。 ・研究開発部を組織改編し、試験臨床研究部門、試験環境研究部門、試験作成支援研究部門、試験問題研究部門（客員研究部門）の4部門を設置。 ・ハートシステムをインターネット利用に更新。
平成14年 4月(2002年)	・管理部の庶務課を総務課に名称変更し、総務課に企画室を設置。
平成15年 4月(2003年)	・適性試験企画調整官を設置。
平成15年 8月(2003年)	・第1回法科大学院適性試験を実施（8月31日）。
平成16年 1月(2004年)	・第2代理事長に荒川正昭（前新潟大学長）が就任。
平成16年 4月(2004年)	・管理部に適性試験課、研究開発部に適性試験研究部門、事業第一課に試験企画室を設置。
平成17年 4月(2005年)	・管理部に情報システム開発室を設置。

第2期(平成18～22年)

平成18年 4月(2006年)	・第2期中期目標・中期計画期間開始。 ・管理部の会計課を財務課に名称変更。 ・研究開発部を組織改編し、試験基盤設計研究部門、試験評価解析研究部門、試験問題研究部門（客員研究部門）の3部門を設置。 ・情報統括責任者（CIO）の下に業務・システム最適化推進室を設置（情報システム開発室を廃止）。
平成18年 5月(2006年)	・第1回全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会を開催。
平成19年 4月(2007年)	・第3代理事長に吉本高志（前東北大学長）が就任。 ・管理部を総務企画部に名称変更し、総務企画部に業務・システム最適化推進室を移管。
平成21年 4月(2009年)	・試験・研究副統括官（2名）を設置。
平成21年10月(2009年)	・大学入試センター入学者選抜共同研究機構（仮称）創設準備室を設置。
平成22年 4月(2010年)	・大学入試センター入学者選抜研究機構を設置（大学入試センター入学者選抜共同研究機構（仮称）創設準備室を廃止）。
平成22年 7月(2010年)	・法科大学院適性試験の終了に伴い、適性試験企画調整官及び適性試験課を廃止。
平成23年 3月(2011年)	・ハートシステム廃止。

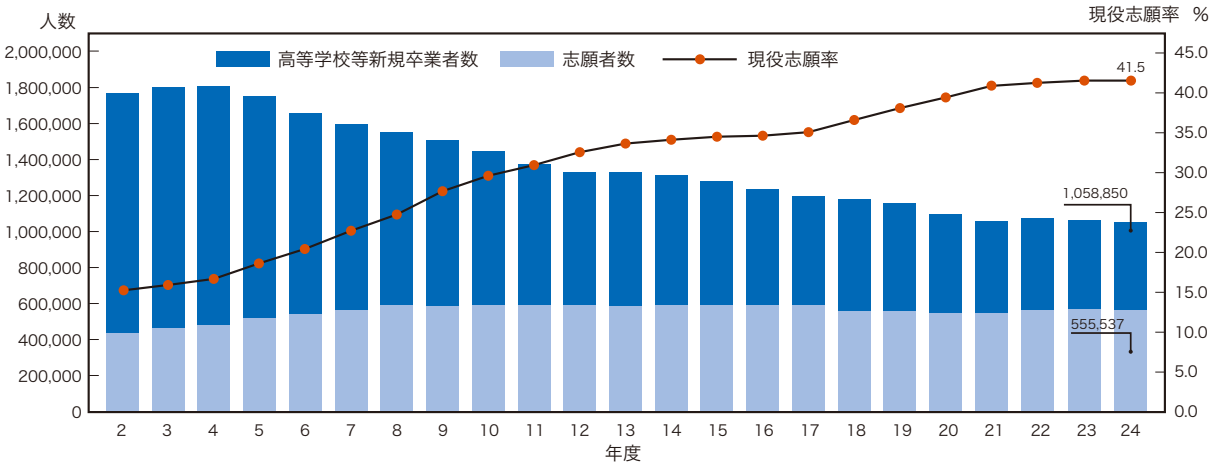
第3期(平成23年～)

平成23年 4月(2011年)	・第3期中期目標・中期計画期間開始。 ・総務企画部情報課を廃止、総務課に主幹を設置。
平成23年 5月(2011年)	・KICE（韓国教育課程評価院）と協定を締結。



平成 24 年度大学入試センター試験統計データ

志願者数及び現役志願率の推移



出願資格別志願者数

区分	志願者数	比率	対前年度増減分
高等学校等卒業見込者	439,713 人 (442,421 人)	79.2% (79.1%)	2,708 人 0.6%減
高等学校等卒業生	109,748 人 (110,211 人)	19.8% (19.7%)	463 人 0.4%減
高等専門学校第3学年修了者	252 人 (234 人)		
外国の学校(12年の課程)修了者	158 人 (147 人)		
在外教育施設(高等課程)修了者	169 人 (154 人)		
専修学校高等課程修了者等	52 人 (53 人)		
文部科学大臣の指定した者	18 人 (21 人)		
高等学校卒業程度認定試験合格者等	5,352 人 (5,665 人)		
大学の個別入学資格審査により認定を受けた者	75 人 (78 人)		
合 計	555,537 人 (558,984 人)	100.0 (100.0)	3,447 人 0.6%減

(注) 小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

高等学校等卒業見込者・卒業者の学科別志願者数

区分	合計	男	女
普通科	506,258 人 92.1% (510,023 人 92.3%)	288,906 人 (292,624 人)	217,352 人 (217,399 人)
農業科	524 人 0.1% (533 人 0.1%)	351 人 (367 人)	173 人 (166 人)
工業科	2,266 人 0.4% (2,399 人 0.4%)	1,916 人 (2,070 人)	350 人 (329 人)
商業科	2,666 人 0.5% (2,863 人 0.5%)	1,271 人 (1,390 人)	1,395 人 (1,473 人)
理数科	11,669 人 2.1% (11,237 人 2.0%)	8,312 人 (7,928 人)	3,357 人 (3,309 人)
総合学科	10,601 人 1.9% (10,294 人 1.9%)	5,607 人 (5,476 人)	4,994 人 (4,818 人)
その他の学科	15,477 人 2.8% (15,283 人 2.8%)	6,329 人 (6,342 人)	9,148 人 (8,941 人)
合計	549,461 人 100.0% (552,632 人 100.0%)	312,692 人 (316,197 人)	236,769 人 (236,435 人)

(注) 小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100にならない場合がある。

志願者数及び受験者数(教科数別)

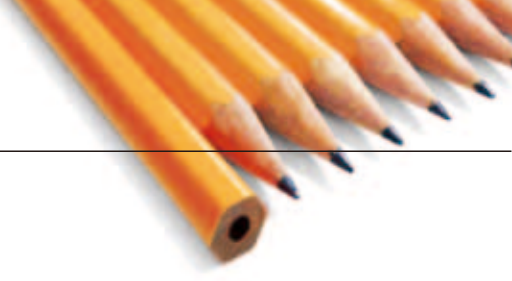
区分	2教科以下	3教科以上	合計
志願者数	15,994 人 (13,645 人)	539,543 人 (545,339 人)	555,537 人 (558,984 人)
受験者数	13,875 人 (11,829 人)	512,436 人 (515,964 人)	526,311 人 (527,793 人)

(注) 受験率：〔受験者数／志願者数×100〕94.74% (94.42%)

平成 24 年度大学入試センター試験(本試験) 平均点等一覧

教 科 名		科 目 名	受験者数	平 均 点	最高点	最低点	標準偏差
国 語 (200 点)		国語	502,525	117.95 (58.97)	200 (100)	0 (0)	35.32 (17.66)
地 理 歴 史 (100 点)		世界史A	1,701	43.62	100	0	20.36
		世界史B	91,139	60.93	100	0	20.28
		日本史A	3,302	48.74	100	0	18.77
		日本史B	157,372	67.92	100	0	18.48
		地理A	2,695	47.42	91	0	15.08
		地理B	132,528	62.16	100	0	14.40
公 民 (100 点)		現代社会	105,570	52.10	100	0	15.01
		倫理	35,537	69.01	100	0	16.69
		政治・経済	57,224	57.99	100	0	16.61
		倫理、政治・経済	49,601	67.14	100	0	15.82
数 学	数 学 ① (100 点)	数学Ⅰ	7,186	40.18	100	0	21.34
		数学Ⅰ・数学A	384,818	69.97	100	0	19.98
	数 学 ② (100 点)	数学Ⅱ	6,917	26.03	95	0	17.57
		数学Ⅱ・数学B	349,438	51.16	100	0	19.90
		工業数理基礎	42	35.64	72	0	17.46
		簿記・会計	1,288	45.64	100	4	18.60
		情報関係基礎	651	56.89	100	12	18.65
理 科 (100 点)		理科総合A	15,270	67.92	100	0	17.04
		理科総合B	20,365	60.36	100	0	12.83
		物理Ⅰ	152,853	68.03	100	0	21.51
		化学Ⅰ	223,669	65.13	100	0	24.13
		生物Ⅰ	189,214	64.00	100	0	20.77
		地学Ⅰ	18,347	69.48	100	0	17.78
外国語	筆 記 (200 点)	英語	519,867	124.15 (62.07)	200 (100)	0 (0)	42.05 (21.02)
		ドイツ語	125	144.10 (72.05)	200 (100)	33 (16)	50.26 (25.13)
		フランス語	142	131.68 (65.84)	200 (100)	23 (11)	43.29 (21.64)
		中国語	389	154.08 (77.04)	200 (100)	17 (8)	37.98 (18.99)
		韓国語	151	146.36 (73.18)	200 (100)	28 (14)	41.93 (20.96)
	リスニング (50 点)	英語	514,748	24.55 (49.10)	50 (100)	0 (0)	8.03 (16.06)

(注) 平均点、最高点、最低点及び標準偏差欄の()内の数値は、100点満点に換算したもの。



大学入試センター試験参加大学数の推移

年度	国立大学	公立大学	私立大学	計
20	82 大学	73 大学	466 大学 1,316 学部	621 大学
21	82 大学	74 大学	487 大学 1,380 学部	643 大学
22	82 大学	75 大学	494 大学 1,404 学部	651 大学
23	82 大学	79 大学	504 大学 1,440 学部	665 大学
24	82 大学	79 大学	513 大学 1,478 学部	674 大学
25	82 大学	80 大学	523 大学 1,505 学部	685 大学

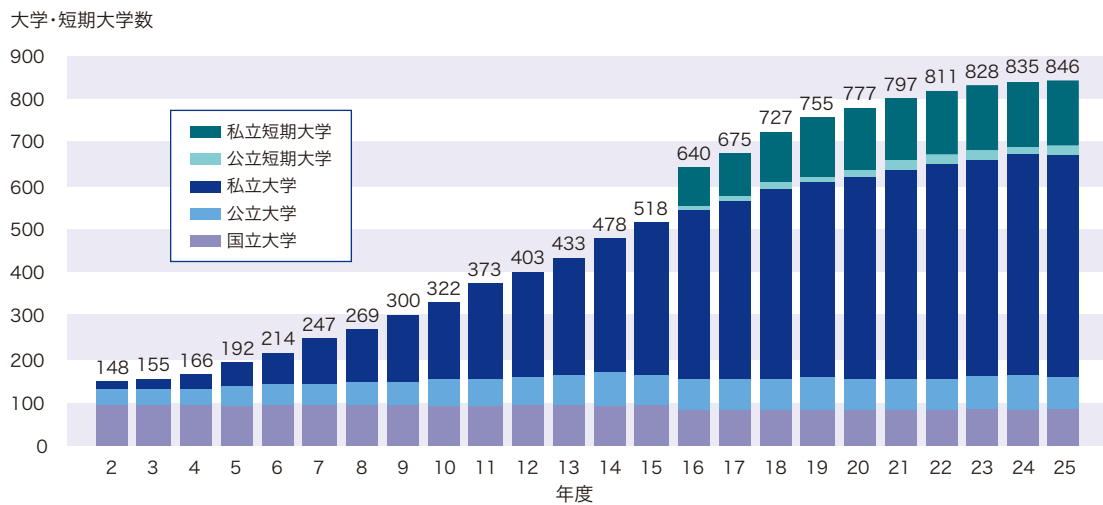
(注) 1 夜間部・夜間主コースは1学部として集計している。
2 平成25年度については、平成24年3月31日現在の予定数。

大学入試センター試験参加短期大学数の推移

年度	公立短期大学	私立短期大学	計
20	17 短期大学 43 学科	139 短期大学 321 学科	156 短期大学
21	15 短期大学 39 学科	139 短期大学 324 学科	154 短期大学
22	15 短期大学 39 学科	145 短期大学 326 学科	160 短期大学
23	15 短期大学 38 学科	148 短期大学 326 学科	163 短期大学
24	16 短期大学 40 学科	145 短期大学 316 学科	161 短期大学
25	15 短期大学 38 学科	146 短期大学 319 学科	161 短期大学

(注) 1 夜間部・夜間主コースは1学科として集計している。
2 平成25年度については、平成24年3月31日現在の予定数。

大学入試センター試験参加大学・短期大学数



平成25年度大学入試センター試験参加大学 (平成24年3月31日現在)

■は平成25年度新規参加大学
■は平成25年度新規参加学部がある大学

■北海道	富士大学	【私立】	人間総合科学大学 ■
【国立】	盛岡大学	茨城キリスト教大学	文教大学
旭川医科大学		筑波学院大学	平成国際大学
小樽商科大学	■宮城県	つくば国際大学	明海大学
帯広畜産大学	【国立】	常磐大学	ものづくり大学
北見工業大学	東北大学	流通経済大学	
北海道大学	宮城教育大学		■千葉県
北海道教育大学	【公立】	■栃木県	【国立】
室蘭工業大学	宮城大学	【国立】	千葉大学
【公立】	【私立】	宇都宮大学	【公立】
釧路公立大学	石巻専修大学	【私立】	千葉県立保健医療大学
公立ほこだて未来大学	尚絅学院大学	足利工業大学	【私立】
札幌医科大学	仙台大学	宇都宮共和大学	植草学園大学
札幌市立大学	仙台白百合女子大学	国際医療福祉大学	江戸川大学
名寄市立大学	東北学院大学	作新学院大学	亀田医療大学 ■
【私立】	東北工業大学	獨協医科大学	川村学園女子大学
旭川大学	東北福祉大学	白鷗大学	神田外語大学
札幌大学	東北文化学園大学		敬愛大学
札幌学院大学	東北薬科大学	■群馬県	国際武道大学
札幌国際大学	宮城学院女子大学	【国立】	秀明大学
千歳科学技術大学		群馬大学	淑徳大学
天使大学	■秋田県	【公立】	城西国際大学 ■
道都大学	【国立】	群馬県立県民健康科学大学	聖徳大学
苫小牧駒澤大学	秋田大学	群馬県立女子大学	清和大学
日本赤十字北海道看護大学	【公立】	高崎経済大学	千葉科学大学
函館大学	秋田県立大学	前橋工科大学	千葉工業大学
藤女子大学	国際教養大学	【私立】	千葉商科大学
北翔大学	【私立】	関東学園大学	中央学院大学
北星学園大学	秋田看護福祉大学	共愛学園前橋国際大学	東京歯科大学
北海学園大学	日本赤十字秋田看護大学	桐生大学	東京情報大学
北海商科大学	ノースアジア大学	群馬医療福祉大学 ■	東京成徳大学
北海道医療大学		群馬パース大学	日本橋学園大学
北海道工業大学	■山形県	上武大学	了徳寺大学
北海道情報大学	【国立】	高崎健康福祉大学	麗澤大学
北海道文教大学	山形大学	高崎商科大学	和洋女子大学
北海道薬科大学	【公立】	東京福祉大学	
酪農学園大学	山形県立保健医療大学		■東京都
稚内北星学園大学	【私立】	■埼玉県	【国立】
	東北芸術工科大学	【国立】	お茶の水女子大学
■青森県	東北公益文科大学	埼玉大学	電気通信大学
【国立】	東北文教大学	【公立】	東京大学
弘前大学		埼玉県立大学	東京医科歯科大学
【公立】	■福島県	【私立】	東京海洋大学
青森県立保健大学	【国立】	浦和大学	東京外国語大学
青森公立大学	福島大学	共栄大学	東京学芸大学
青森大学	【私立】	【公立】	埼玉医科大学 ■
青森中央学院大学	会津大学	埼玉学園大学	東京芸術大学
東北女子大学 ■	福島県立医科大学	埼玉工業大学	東京工業大学
八戸大学	【私立】	十文字学園女子大学	東京農工大学
八戸工業大学	いわき明星大学	城西大学	一橋大学
弘前医療福祉大学	郡山女子大学	尚美学園大学	【公立】
弘前学院大学	東日本国際大学	女子栄養大学	首都大学東京
		駿河台大学	【私立】
	■茨城県	西武文理大学	青山学院大学
■岩手県	【国立】	東京国際大学	亜細亜大学
【国立】	茨城大学	東都医療大学	跡見学園女子大学
岩手大学	筑波大学	獨協大学	桜美林大学
【公立】	筑波技術大学	日本医療科学大学	大妻女子大学
岩手県立大学	【公立】	日本工業大学	嘉悦大学
【私立】	茨城県立医療大学	日本保健医療大学 ■	北里大学
岩手医科大学 ■		日本薬科大学	共立女子大学
			杏林大学

恵泉女学園大学	日本大学	【私 立】	【私 立】
工学院大学	日本歯科大学	敬和学園大学	佐久大学
國學院大學	日本社会事業大学	長岡大学	諏訪東京理科大学
国際基督教大学	日本獣医生命科学大学	長岡造形大学	清泉女学院大学
国士舘大学	日本女子大学	新潟医療福祉大学	長野大学
こども教育宝仙大学	日本女子体育大学	新潟経営大学	松本大学
駒澤大学	日本赤十字看護大学	新潟工科大学	松本歯科大学
駒沢女子大学	日本文化大学	新潟国際情報大学	
実践女子大学	文化学園大学	新潟産業大学	■ 岐阜県
芝浦工業大学	文京学院大学	新潟青陵大学	【国 立】
順天堂大学	法政大学	新潟薬科大学	岐阜大学
昭和大学	星薬科大学	新潟リハビリテーション大学	【公 立】
昭和女子大学	武蔵大学		岐阜県立看護大学
昭和薬科大学	武蔵野大学	■ 富山県	岐阜薬科大学
女子美術大学 ■	武蔵野音楽大学	【国 立】	【私 立】
白梅学園大学	武蔵野美術大学	富山大学	朝日大学
白百合女子大学	明治大学	【公 立】	岐阜医療科学大学
杉野服飾大学	明治学院大学	富山県立大学	岐阜経済大学
成蹊大学	明治薬科大学	【私 立】	岐阜女子大学
成城大学	明星大学	高岡法科大学	岐阜聖徳学園大学
清泉女子大学	目白大学	富山国際大学	中京学院大学
専修大学	ヤマザキ学園大学		中部学院大学
創価大学	立教大学	■ 石川県	東海学院大学
大正大学	立正大学	【国 立】	
大東文化大学	ルーテル学院大学	金沢大学	■ 静岡県
高千穂大学	和光大学	【公 立】	【国 立】
拓殖大学	早稲田大学	石川県立大学	静岡大学
多摩大学		石川県立看護大学	浜松医科大学
玉川大学	■ 神奈川県	金沢美術工芸大学	【公 立】
多摩美術大学	【国 立】	【私 立】	静岡県立大学
中央大学	横浜国立大学	金沢学院大学	静岡文化芸術大学
津田塾大学	【公 立】	金沢工業大学	【私 立】
帝京大学	神奈川県立保健福祉大学	金沢星稜大学	静岡英和学院大学
帝京科学大学	横浜市立大学	金城大学	静岡産業大学
帝京平成大学	【私 立】	北陸大学	静岡福祉大学
デジタルハリウッド大学	麻布大学	北陸学院大学	静岡理工科大学
東海大学	神奈川大学		聖隷クリストファー大学
東京医科大学	神奈川工科大学	■ 福井県	常葉学園大学
東京医療学院大学 ■	鎌倉女子大学	【国 立】	浜松大学
東京医療保健大学	関東学院大学	福井大学	浜松学院大学
東京音楽大学	相模女子大学	【公 立】	富士常葉大学
東京家政大学	産業能率大学	福井県立大学	
東京家政学院大学	松蔭大学	【私 立】	■ 愛知県
東京経済大学	湘南工科大学	仁愛大学	【国 立】
東京工科大学	昭和音楽大学	福井工業大学	愛知教育大学
東京工芸大学	鶴見大学		豊橋技術科学大学
東京純心女子大学	田園調布学園大学 ■	■ 山梨県	名古屋大学
東京女学館大学	桐蔭横浜大学	【国 立】	名古屋工業大学
東京女子大学	東洋英和女学院大学	山梨大学	【公 立】
東京女子体育大学	フェリス女学院大学	【公 立】	愛知県立大学
東京聖栄大学	横浜商科大学	都留文科大学	愛知県立芸術大学
東京造形大学 ■	横浜創英大学 ■	山梨県立大学	名古屋市立大学
東京電機大学	横浜美術大学	【私 立】	【私 立】
東京都市大学	横浜薬科大学	健康科学大学	愛知大学
東京農業大学		山梨英和大学	愛知医科大学
東京富士大学	■ 新潟県	山梨学院大学	愛知学院大学 ■
東京未来大学 ■	【国 立】		愛知学泉大学
東京薬科大学	上越教育大学	■ 長野県	愛知工科大学
東京理科大学	長岡技術科学大学	【国 立】	愛知工業大学
東邦大学	新潟大学	信州大学	愛知産業大学
東洋大学 ■	【公 立】	【公 立】	愛知淑徳大学
東洋学園大学	新潟県立大学	長野県看護大学	愛知東邦大学
二松学舎大学	新潟県立看護大学		愛知みずほ大学

桜花学園大学	【私 立】	四天王寺大学	天理医療大学 ■
金城学院大学	大谷大学	摂南大学 ■	奈良大学
至学館大学	京都外国語大学	千里金蘭大学	奈良産業大学
修文大学	京都学園大学	相愛大学	
椋山女学園大学	京都華頂大学	太成学院大学	■ 和歌山県
星城大学	京都光華女子大学	帝塚山学院大学	【国 立】
大同大学	京都嵯峨芸術大学	常盤学院大学	和歌山大学
中京大学	京都産業大学	梅花女子大学 ■	【公 立】
中部大学	京都女子大学	羽衣国際大学	和歌山県立医科大学
東海学園大学	京都精華大学	阪南大学	
同朋大学	京都造形芸術大学	東大阪大学	■ 鳥取県
豊田工業大学	京都橘大学 ■	プール学院大学	【国 立】
豊橋創造大学	京都ノートルダム女子大学	桃山学院大学	鳥取大学
名古屋外国語大学	京都薬科大学		【公 立】
名古屋学院大学	種智院大学	■ 兵庫県	鳥取環境大学
名古屋学芸大学	成美大学	【国 立】	
名古屋経済大学	同志社大学	神戸大学	■ 島根県
名古屋芸術大学	同志社女子大学	兵庫教育大学	【国 立】
名古屋商科大学	花園大学	【公 立】	島根大学
名古屋女子大学	佛教大学	神戸市外国語大学	【公 立】
名古屋造形大学 ■	平安女学院大学	神戸市看護大学	島根県立大学
名古屋文理大学	明治国際医療大学	兵庫県立大学	
南山大学	立命館大学	【私 立】	■ 岡山県
日本赤十字豊田看護大学 ■	龍谷大学	大手前大学	【国 立】
日本福祉大学		関西看護医療大学	岡山大学
人間環境大学	■ 大阪府	関西国際大学	【公 立】
藤田保健衛生大学	【国 立】	関西福祉大学	岡山県立大学
名城大学	大阪大学	関西学院大学	新見公立大学
	大阪教育大学	近畿医療福祉大学	【私 立】
■ 三重県	【公 立】	近大姫路大学	岡山商科大学
【国 立】	大阪市立大学	甲子園大学	岡山理科大学
三重大学	大阪府立大学	甲南大学	川崎医療福祉大学
【公 立】	【私 立】	甲南女子大学	環太平洋大学
三重県立看護大学	藍野大学	神戸海星女子学院大学	吉備国際大学
【私 立】	追手門学院大学	神戸学院大学	倉敷芸術科学大学
皇學館大学	大阪青山大学	神戸芸術工科大学	くらしき作陽大学
鈴鹿医療科学大学	大阪医科大学	神戸国際大学	山陽学園大学
鈴鹿国際大学	大阪大谷大学	神戸夙川学院大学	就実大学
四日市大学	大阪学院大学	神戸松蔭女子学院大学	中国学園大学
四日市看護医療大学	大阪河崎リハビリテーション大学	神戸女学院大学	ノートルダム清心女子大学
	大阪観光大学	神戸女子大学	美作大学
	大阪経済大学	神戸親和女子大学	
■ 滋賀県		神戸常盤大学	■ 広島県
【国 立】	大阪経済法科大学	神戸薬科大学	【国 立】
滋賀大学 ■	大阪芸術大学	園田学園女子大学	広島大学
滋賀医科大学	大阪工業大学	姫路獨協大学	【公 立】
【公 立】	大阪国際大学	兵庫大学	尾道市立大学
滋賀県立大学	大阪産業大学	兵庫医科大学	県立広島大学
【私 立】	大阪樟蔭女子大学	兵庫医療大学	広島市立大学
成安造形大学	大阪商業大学	武庫川女子大学	福山市立大学
聖泉大学	大阪女学院大学	流通科学大学	【私 立】
長浜バイオ大学	大阪成蹊大学		エリザベト音楽大学
びわこ学院大学	大阪総合保育大学		
びわこ成蹊スポーツ大学	大阪電気通信大学	■ 奈良県	日本赤十字広島看護大学
	大阪人間科学大学	【国 立】	比治山大学
■ 京都府	大阪保健医療大学	奈良教育大学	広島経済大学
【国 立】	大阪薬科大学	奈良女子大学	広島工業大学
京都大学	関西大学	【公 立】	広島国際大学 ■
京都教育大学	関西医科大学 ■	奈良県立大学	広島国際学院大学
京都工芸繊維大学	関西医療大学	奈良県立医科大学	広島修道大学
【公 立】	関西外国語大学	【私 立】	広島女学院大学
京都市立芸術大学	関西福祉科学大学	畿央大学	広島都市学園大学
京都府立大学	近畿大学	帝塚山大学	広島文化学園大学
京都府立医科大学	四條畷学園大学	天理大学	広島文教女子大学



年 月	試験の実施	改善の経緯
平成元年11月（1989年）		大学入試センターが調査研究を進めてきた「大学入試センター試験において選択科目間に著しい得点差を生じた場合の対応策」について大学入試センター試験協議会が、最終的にその内容を合意了承し、発表した。
平成2年1月（1990年）	平成2年度大学入試センター試験（第1回）を実施した（1月13、14日）。	
平成3年1月（1991年）	平成3年度大学入試センター試験（第2回）を実施した（1月12、13日）。	
平成4年1月（1992年）	平成4年度大学入試センター試験（第3回）を実施した（1月11、12日）。	
平成5年1月（1993年）	平成5年度大学入試センター試験（第4回）を実施した（1月16、17日）。	
平成6年1月（1994年）	平成6年度大学入試センター試験（第5回）を実施した（1月15、16日）。	
平成6年6月（1994年）		「平成9年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について」を公表した。（中間まとめは、平成5年6月に公表）
平成7年1月（1995年）	平成7年度大学入試センター試験（第6回）を実施した（1月14、15日）。	
平成7年12月（1995年）		平成9年度からの大学入試センター試験の諸課題について、①追試験は当面存続すること、②得点調整は行わないこと、③いわゆる校間の配点は公表することを決定し、発表した。（中間発表は、平成7年5月に公表）
平成8年1月（1996年）	平成8年度大学入試センター試験（第7回）を実施した（1月13、14日）。	
平成9年1月（1997年）	平成9年度大学入試センター試験（第8回）を実施し、校間の配点まで公表した（1月18、19日）。 〔改訂高等学校学習指導要領により出題〕 なお、「数学」において旧課程対応科目と新課程対応科目間において著しい平均点差が生じた。	
平成9年2月（1997年）	各大学が実施する個別学力検査等において、国立大学は分離・分割方式に統一した試験が実施された。	
平成9年4月（1997年）		平成9年度大学入試センター試験において発生した諸問題について大学入試センターとしての改善方策（①高等学校関係者による難易度等のチェック体制の整備、②得点調整を行う方向での検討、③試験結果の中間発表、④新課程対応及び旧課程対応の2つの科目の出題、⑤出題者に高等学校関係者を加えることの検討）を発表した。
平成9年5月（1997年）		大学入試センターに「得点調整検討委員会」を設置し、得点調整の在り方について検討を開始した。
平成9年11月（1997年）		大学入試センター試験の得点調整の実施方法について発表した。
平成10年1月（1998年）	平成10年度大学入試センター試験（第9回）を実施した（1月17、18日）。 大学入試センター試験発足後、初めて平均点等の中間発表を行った。 「地理歴史」の地理Bと日本史Bの科目間に著しい平均点差が生じ、大学入試センター試験発足後、初めて得点調整を行った。	
平成11年1月（1999年）	平成11年度大学入試センター試験（第10回）を実施した（1月16、17日）。	
平成11年2月（1999年）	各大学が実施する個別学力検査等において、公立大学は分離・分割方式及び中期日程により試験が実施された。	
平成11年6月（1999年）		国立大学協会が「国立大学の入試情報開示に関する基本的な考え方」を発表した。
平成11年12月（1999年）		中央教育審議会が「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）」を発表した。
平成12年1月（2000年）	平成12年度大学入試センター試験（第11回）を実施した（1月15、16日）。	
平成12年11月（2000年）		国立大学協会が「国立大学の入試改革―大学入試の大衆化を超えて―」を発表した。 大学審議会が「大学入試の改善について（答申）」を発表した。
平成13年1月（2001年）	平成13年度大学入試センター試験（第12回）を実施した（1月20、21日）。	
平成13年3月（2001年）	平成14年度大学入試センター試験から、外国語の出題科目に「韓国語」を導入すること、また、大学の判断により前年度成績を当該年度に利用できることとした。（「平成14年度大学入試センター試験の実施大綱」の一部改正） 上記改正に伴い、「平成14年度大学入試センター試験出題教科・科目等の出題方法等の一部改正について」を通知した。	
平成13年7月（2001年）		文部科学省は、平成16年度大学入試センター試験から、試験日程を変更し、教科「理科」のコマ数を現行の2コマから3コマに変更する方針を発表した。
平成13年8月（2001年）	平成16年度大学入試センター試験から試験日程を変更することとした。	
平成14年1月（2002年）	平成14年度大学入試センター試験（第13回）を実施した（1月19日、20日）。	
平成14年3月（2002年）		「平成18年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について ―中間まとめ―」を公表した。

年 月	試験の実施	改善の経緯
平成14年5月（2002年）	平成16年度大学入試センター試験から、短期大学も大学入試センター試験を利用できるようにしたこと及び出題教科「理科」について、従来の2コマから3コマに試験時間を増やすこととなった。	
平成14年7月（2002年）		文部科学省は、「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」を発表し、その主要な政策の一つとして、「大学入試センター試験でのリスニングテストの導入（平成18年度実施を目標）」を公表した。
平成15年1月（2003年）	平成15年度大学入試センター試験（第14回）を実施した（1月18日、19日）。	
平成15年6月（2003年）		「平成18年度からの大学入試センター試験の出題教科・科目等について―最終まとめ―」を公表した。
平成15年11月（2003年）		文部科学省は、平成18年度大学入試センター試験における教科「外国語」のリスニングテストの実施方法を発表した。
平成16年1月（2004年）	平成16年度大学入試センター試験（第15回）を実施した（1月17日、18日）。	
平成16年9月（2004年）	リスニング試行テストを実施した（9月26日、沖縄地区は10月10日）。	
平成17年1月（2005年）	平成17年度大学入試センター試験（第16回）を実施した（1月15日、16日）。	中央教育審議会が「我が国の高等教育の将来像（答申）」を発表した。
平成18年1月（2006年）	平成18年度大学入試センター試験（第17回）を実施した（1月21日、22日）。〔改訂高等学校学習指導要領により出題〕 また、初めて、「英語」においてリスニングを実施した。	
平成18年4月（2006年）		全国大学入学者選抜研究連絡協議会を、大学入試センターの事業として開始した。
平成19年1月（2007年）	平成19年度大学入試センター試験（第18回）を実施した（1月20日、21日）。	
平成20年1月（2008年）	平成20年度大学入試センター試験（第19回）を実施した（1月19日、20日）。	
平成20年3月（2008年）		中央教育審議会が「学士課程教育の構築に向けて」（審議のまとめ）を3月に発表した。
平成20年4月（2008年）		中央教育審議会が「教育振興基本計画について」～「教育立国」の実現に向けて～（答申）を4月に発表した。
平成20年5月（2008年）	平成22年度大学入試センター試験から、過去3年前の成績を当該年度の選抜に利用することを認めることとした。	
平成20年8月（2008年）		文部科学省は、平成24年度大学入試センター試験から、出題教科・科目の選択範囲及び試験時間を変更する方針を発表した（「地理歴史・公民」「理科」における科目選択の弾力化、「倫理、政治・経済」の新設）。 大学入試センターは、大学入試センター試験の改善について、①平成22年度大学入試センター試験から、過去のセンター試験や大学の個別学力検査で使用した素材文及び教科書に掲載された文章を利用することもあり得ること、②平成24年度大学入試センター試験から、受験教科の事前登録制を採用すること、を決定し、発表した。
平成21年1月（2009年）	平成21年度大学入試センター試験（第20回）を実施した（1月17日、18日）。	
平成21年3月（2009年）		文部科学省は、高等学校学習指導要領の改正告示をした。
平成21年6月～8月（2009年）		中央教育審議会大学分科会が、「中長期的な大学教育の在り方に関する第一・二次報告」を公表した。
平成22年1月（2010年）	平成22年度大学入試センター試験（第21回）を実施した（1月16日、17日）。 追試験については、例年1週間後に実施するが、新インフルエンザ対応として2週間後の1月30、31日に実施した。	
平成22年12月（2010年）		「平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入試センター試験の数学、理科の出題科目等について（案）」を公表した。
平成23年1月（2011年）	平成23年度大学入試センター試験（第22回）を実施した（1月15、16日）。	
平成23年4月（2011年）		「平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した大学入試センター試験の数学、理科の出題科目等について」を公表した。
平成23年12月（2011年）		「平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度大学入試センター試験からの出題教科・科目等について（中間まとめ）」を公表した。
平成24年1月（2012年）	平成24年度大学入試センター試験（第23回）を実施した（1月14、15日）。 また、受験教科の事前登録制を導入した。	
平成24年5月（2012年）		「平成21年告示高等学校学習指導要領に対応した平成28年度大学入試センター試験からの出題教科・科目等について（最終まとめ）」を公表した。